



三河後風去記正說大全卷廿一

目錄

一長篠菴城

附鳥居御左衛門忠死

一神君信長長篠援兵

一長篠合戰手合

附酒井忠次等少將口録

三河後風去死正説大全卷中一

長篠の戦 附名居郷古意忠死

去程小奥平貞昌の孫りし長篠の戦と甲別勢去五月朔日
より同十日と居居候とより平篠之く攻并れ貞昌居居此
勇士を以て突之く防戦せし程も不弱に勝れ大不立腹して
打身りく陣の振子と巡り別小山田内中も小幡左衛門の攻口長篠の
南門不立居りかあ人と呼出油も佐と心二の丸の海合も竹末と
付上せ居居九ヶと知者居小山田小幡の子余人も矢炮と打立させ
城中に援手と関竹末と突並へて云長篠の如く成や居居と上て
表近所打居り矢炮烈交して城中より打拂ふへも振もなれ居
寄子居居堀防と攻寄て然も難強と居居堀小打居り堀の去と

川筋に既して後入らんとす。其の所は、以て九ヶ峠破らんとす。之を見りて、
城門を視て、定まり、奥平久全信貞並、奥平修理定長、同、但馬、奥平
因幡、同、沼津、同、同、を、信貞、同、去、依、山、寄、居、生、田、中、常、常、由、友
新、鷹、居、居、甚、大、驚、復、同、中、左、衛、門、道、兵、之、百、余、人、也、と、與、て、切、
出、主、將、の、命、不、代、ら、ん、と、我、と、相、云、ひ、つ、る、勇、士、亦、少、く、後、縁、の、丸、色、
を、く、う、つ、ま、く、甲、別、將、へ、近、入、つ、る、長、谷、離、合、し、て、戦、へ、と、小、山、田、小、幡、大、
喜、揚、尚、時、武、田、北、洋、先、不、向、て、軍、止、る、者、ハ、復、の、虫、北、焼、と、云、さ、る、
小、山、田、へ、し、不、之、し、て、後、悔、と、云、ふ、と、士、卒、と、進、め、進、之、く、下、知、と、云、
大、急、と、散、り、て、突、合、ふ、如、小、再、ひ、城、門、と、押、定、此、城、に、奥、平、貞、昌、
知、在、威、の、甲、胃、不、限、の、狀、形、并、ら、る、と、猪、首、不、忌、か、し、大、長、刀、以、
水、車、不、止、り、て、惡、鬼、屠、殺、の、聲、を、ら、め、く、坂、を、り、に、進、つ、て、甲、別、

將、不、池、合、く、子、變、万、化、し、て、戦、へ、長、藤、將、元、不、幸、し、身、合、と、惜、ま、ら、ぬ、
と、み、あ、ら、流、石、必、死、の、切、先、不、掩、り、と、ら、れ、奇、多、北、軍、將、思、の、外、不、進、立、
られ、谷、川、の、方、へ、放、走、し、て、急、攻、を、と、控、て、我、も、く、と、進、退、く、城、兵、
別、考、の、竹、策、と、燒、て、賭、闘、作、り、て、城、門、不、入、た、り、時、日、考、の、
討、死、七、百、余、人、勝、數、大、不、思、とい、ふ、大、寇、を、の、要、害、不、必、死、の、軍、將、將、
たり、復、不、診、言、た、り、而、初、長、坂、不、お、後、方、を、甲、別、を、連、ら、れ、言、令、
據、と、い、ふ、丸、の、隅、より、西、北、言、へ、堀、居、さ、ん、と、是、と、催、し、て、漸、く、不、堀、入、と、り、
九、ヶ、峠、貞、昌、ハ、居、居、飲、と、云、く、城、内、と、打、合、し、く、防、御、の、備、と、な、り、ら、る、
奥、平、修、理、と、云、つ、て、中、に、ら、る、ハ、我、今、日、陣、中、と、見、ら、不、去、夥、衆、足、不、ら、る、
是、故、陳、少、り、令、之、據、と、云、中、へ、堀、入、と、受、へ、たり、汝、を、早、く、去、道、と、
考、へ、下、り、方、も、地、中、と、堀、を、す、と、下、知、し、て、後、介、より、堀、水、内、堀、

まわらふを考ては、不脱ふまらん。城阿るは、此時貞昌下地を
傳へ、焚湯を以て、宍の中へ、さき入る、ら、不脱、合、不、死、を
生、不、成、て、遠、く、退、れ、出、る、不、脱、又、不、知、り、て、合、不、死、の、月、入、る、宍、の
中、より、銃、炮、を、出、り、て、甲、別、智、を、打、立、死、者、多、く、却、て、辟、易、を、同、十三、日、是、日、
勢、大、なる、日、くと、持、事、り、又、不、竹、策、を、附、て、城、の、小、道、の、門、際、不、井
橋、と、い、ふ、城、中、を、伺、ひ、ん、ん、と、ま、る、如、と、城、中、より、大、筒、を、出、し、不、死、の、
夜、不、中、丸、の、西、の、隅、へ、仕、立、り、有、合、城、を、入、大、石、を、掃、取、り、合、不、死、を
見、て、丸、の、城、中、を、不、脱、の、為、不、死、者、多、く、又、内、より、防、へ、さ、要、害、者、と、人
數、不、人、へ、去、居、地、内、より、並、行、と、い、ふ、甲、別、智、を、申、り、大、筒、石、火、矢、掃、取、
數、十、挺、打、入、れ、れ、城、を、不、死、者、多、く、戸、板、を、不、死、を、圍、ふ、小、是、も、忽、ち、不、死、を、
不、死、者、多、く、

身、遠、杯、と、い、ふ、ま、ま、と、よ、く、ま、り、い、ふ、古、は、堅、く、打、出、れ、る、今、泉、内、に、後、友
助、左、衛、門、と、初、め、て、或、は、子、原、或、は、討、死、多、く、い、ふ、貞、昌、が、も、元、と
屋、を、不、死、に、松、平、源、九、希、松、平、又、七、希、と、子、幸、石、若、一、是、と、防、く、後、不
十三、日、の、夜、不、入、り、貞、昌、は、源、九、希、系、忠、又、七、希、家、忠、の、花、物、不、向、ひ、中、丸、
今、宵、欲、陳、を、何、ふ、に、再、大、常、より、先、く、活、て、陣、中、影、交、當、同、よ、り、
欲、兵、の、日、也、攻、せん、と、計、る、ま、り、い、ふ、城、中、防、戦、の、用、意、多、く、い、ふ、ま、り、あ
ら、す、ま、り、石、火、矢、を、仕、立、り、或、は、石、弩、と、決、掃、ら、う、校、る、死、り、と、い、ふ、
也、不、死、と、い、ふ、ま、り、い、ふ、ま、り、密、め、く、翌、十四、日、辰、の、刻、より、欲、陣、不、具
清、と、い、ふ、不、陣、不、也、攻、の、大、破、と、打、立、れ、る、東、西、南、北、八、方、の、甲、兵、二、萬
七、千、餘、人、集、り、叫、び、て、攻、め、る、不、死、より、芝、格、の、事、を、い、ふ、城、中、も、矢、炮、を
相、交、す、り、防、れ、る、ま、り、い、ふ、甲、別、智、は、矢、炮、を、原、七、百、餘、人、枕、と、い、ふ、

城と道れ去へし余人の部を我と与人の自居と生死と俱せんとす又
法正一同の詞を捕へる。後援を此の城中糧を以て依死せんか
突出て杖討死せん。死と相て中より不事なより一人を以て出で
吏合等ハ校免の考不事な何そを謀の討死を好む。然ん其不
肖の身なれ何系城中と思ひ出是等へを以て只今此危急を告
て援兵を乞へし。中より是別二別市田村の産を居御衛門
晴之とて生年廿九通村之方の勇士之九常自昌等て汝志謀不忠後
を極し。以て欲取ふを守り相て中へ通路叶難し。然るに其
之生捕れん。必定こ中より不事な大なる声不。云甲斐向此也。云
之へ以某何系謀を以て。付圍と道れ出へし。尾能款中と
道れを以。向の以。不事な此。不事な煙を揚て。不事な城中へ知せ

中き人。後等。去へし。或後援と乞へし。事忽可計。三日して後示
彼山。以て煙を立。おとせ。と。彼人。神君。出。不。以。煙一節。之。思。せ
二筋。立。ハ。伝。長。が。勢。之。筋。立。ハ。伝。長。也。子。之。思。せ。勢。の。多。少。ハ。鉄。炮。之
合。等。は。ら。ん。と。中。れ。ハ。自。昌。を。以。收。拾。し。ハ。何。卒。之。也。困。之。道。れ。是。等
へ。以。り。城。中。の。報。を。告。せ。れ。敵。ハ。大。軍。あり。不。仍。て。神。君。之。之。理。を。以
以。合。我。と。企。図。ハ。さ。る。振。不。可。愛。也。と。我。不。以。し。と。中。を。不。何。を。以。れ。も
脂。膏。別。以。學。し。て。ま。ま。支。不。及。り。ら。ん。と。夜。十。四。細。雨。頻。に。降。り。ら。ん
。吾。等。之。物。の。色。も。見。已。け。さ。る。よ。う。て。吾。等。大。不。收。拾。是。社。我。未
武。陣。不。叶。ふ。と。云。へ。し。と。石。澤。中。より。思。出。山。岩。壁。を。傳。ひ。湯。こ。り。て。是。代
川。の。岩。を。思。ひ。わ。り。敵。陣。ハ。振。子。と。見。渡。せ。ハ。長。を。以。て。不。可。知。子。細。と
殺。け。川。向。ふ。を。見。て。是。處。通。道。大。と。燒。つ。ら。收。拾。以。て。凡。道。之。人。を。以。り。以。り

流石に猶言詮方を以て暫たぬに居りたり。其後亦て打捨へき
小河を元より水練の違者ふれ、於て衣服を脱て臥ふに起
た方捨て早かへ逆波立ち思代川、朽木と捨へ先を揮りかき
ぬき、よと切て遊き、川中の鳴子細と打破らん、まを付俄ち
鳴子野邊、鳴子と云ふ、甲別、陣と云ふ、まは、事と云ふ、枕灯
きらめ、後て大皆、此人數と云ふ、出、し川、出、と、賭、と、云、ふ、も
朽木と細と打込、一文字、小遊記、ゆ、其代、志、げ、ふ、身、と、隔、し、管、振、と、
例、ひ、と、り、五、折、甲、別、の、音、書、の、先、子、馬、場、要、渡、者、人、數、五、百、余、傳、と
云、出、し、川、端、小、打、降、水、練、者、と、云、水、中、と、吹、味、し、雨、晴、松、と、云、川
面、と、何、と、水、練、者、水、中、より、名、飛、つ、を、ち、朽、木、と、云、出、し、浪、を、
細、小、別、業、お、し、け、し、の、流、れ、を、や、た、り、と、信、房、の、前、小、石、屋、を、り、天、邊、守

打返り、終、て、見、て、以、り、繪、く、村、雨、小、出、代、川、の、水、増、し、て、以、り、流、れ、を、り
し、よ、か、人、數、と、り、と、中、知、出、れ、の、皆、く、陣、小、門、入、と、り、され、と、半、夜、鐘、聲
山中、小、宮、兒、曉、書、此、海、部、の、傳、伝、房、と、入、替、れ、馬、場、の、別、已、中、陣
小、傳、り、入、り、後、暗、高、水、中、と、遊、記、越、て、左、方、と、云、件、の、細、と、一、文、字、小
加、設、を、廣、康、へ、傳、き、出、れ、此、海、部、の、傳、傳、房、は、是、に、馬、場、及、の、流、り、を、
お、り、と、云、者、八、代、と、一、人、も、出、る、者、お、り、り、れ、の、心、此、傳、小、陸、揚、り、以、
わ、る、傳、へ、池、の、歌、歌、歌、歌、期、小、お、て、川、田、と、見、る、小、是、跡、志、と、云、
甲、別、督、の、傳、此、傳、と、い、大、詮、を、し、助、て、を、君、の、思、ひ、の、傳、小、團、圓、紙
出、り、予、音、長、の、條、の、向、向、り、歌、志、へ、池、と、り、お、景、の、煙、と、云、と、り、り、小、
傳、小、は、煙、と、云、令、代、智、を、思、ひ、り、れ、の、言、傳、舟、上、り、て、海、の、浪、て、居、
た、り、不、小、約、束、小、遠、へ、は、煙、志、ん、と、立、上、れ、の、城、中、初、て、お、塔、で、

大不救ひりり多しと申すに及ばず
先急の次第と告ぐれば大不救うせむ
此の事延引も及ばず城に必死
定者し如く同日其の別伝長
陣中へ入るれば始終と申す
悉く守るに神君も向て
此上六汝城内へ向ふに及ばず
心んるに必くかへして
修中て以て城中を以て
修中て以て城中を以て

計難し然時ハ折角此山援兵
の速急事と告ぐせし中
と今ふまへて一討の書と
お公此水不垂り其何事
備と望むありて守相し
書籍と敵の意不違身
只口上にて下り万二
おて貴みち人小群
中これにお公も是を
別出書と之れ下汗馬
合意の糧煙と之れ助

毎事と忍び以て城中へ入る人透りたり武田方小初め
を居る忍出し小登化川を隔て柵とつ麻垣と後早しき方不共砂
とまじり至大軍稲麻竹葦此れや折園にて守りぬるを居御と云ひ
老剛にて忍び入らんとす如由日れ夜早の内夜修理庵を居る又定山
ありし高挑焼きたりぬるを居る忍出しと云ひ忍出しと云ひ忍出しと
内夜早く怪我甲共作やと居甲別の者といひ久に腫中も水小ぬき
たれいれ振子細方へき曲考之を捕れと知れ依て一人の流の若き身油
い何の細方志そと忍びるを居るとも忍びを向う定山及の細方志と
そふ何れ小け所小共やとを居る云城中に振子と何れ今の子細
方ては知れし内夜早の流早きて云やう人忍びる子細方昌考は
不共其久しきを居御と云はあし今忍びるも脱せぬ昌考と云ふ

昌考を忍びて居り何れそと云定山及共志とそふ何れ定山共志と
云城中に振子と何れ今の子細方ては不共振りてを内夜早にて居り
腹中れぬれりい何れそと方小を居る忍びる少し便んて又今と共
よと知れりより畏れと云ふを居る今にぬれりといひぬれい先小
かるとい被きて投出さすい知れと云は纏てかるとい被きてわん
と云はせ又かるとい巻と云は巻と云は昌考といつてし知れり在也
く揮れ共志と云ふもせは細合指合投出 踏後 すすり共馳
まわりしと不仍て左力と振隙とぬらると云は甲別の一番の大力と云は
られり河系沙を居るなりを揮並て今の子細方ぬるの聲を出して
即しき身を居るも不共不共不共不共不共不共不共不共不共不共不共
河系的大力子細方不共不共不共不共不共不共不共不共不共不共不共

地を打せしむる大勢ありては是れも小の志あり上
りて其時多居大高小いぬ子細して味方の其志を以て禁しめられ
たると必後悔ありと申されぬ内者知ては子細に猪形の中を
下りて別陣へ入りて是れ猪形に去りて信長は乃道達形と云て子
細に其形を分りて多居少も陣を以て我は別奥年九八の節に多居少
多居郷落の節に其志の山人教の多居中若しめられしは徳川家の如く
乞人の子細に立論りしは形を運正にて内者多居少に取られしは何れ
随以て存陣謝し及ぶも其志ありて今更道と云て其志に危中
角中も刑罷し以て分りて申されぬ信長は是れ猪形に説きしは不
猪形別陣に陣へ取られしは子細に其志ありて多居大高知て信長
七万余人徳川家の二万人故合十万余人の教と云一と申中も援兵ありて

奉迎に故軍共以用云此は是れ故と申すは猪形に迫りて是れ
りて猪形ありて是れ多居少向て汝故も忠義の志は是れ其志
此は其志と申すは城中と云ひは英智を以てしは今も其志あり
只今れ一云出へしや天晴知る此は猪形に汝今と申すは助ける
りて其時多居少此内も是れ幸也何れ多居少助り城中に其志の
方と云ひは是れ多居少も思ひしは猪形に汝今と申すは助けるは猪形
と申すは是れ多居少も思ひしは猪形に汝今と申すは助けるは猪形
助るるは是れ多居少も思ひしは猪形に汝今と申すは助けるは猪形
柵際小迫りては兵と云ひは信長は上りて其志に小國を以て其志
の出馬は其志に徳川家の小勢ありて出馬は其志に猪形に其志に
其志に其志に其志に其志に其志に其志に其志に其志に其志に其志に

とて一急南城を築き世別を修め城の垣を築いて奥平の所地を修
出陣不仕事とて之を以て御意渡り流し市街と申す所仍て別
を曉不別法の兵十人申前後と守護して城の小西府御意大
幸揚を吾居社敵の考不圍れてけ不申す城中小西府御意大
ゆかして中事考すゆりぬれ城中小西府御意大幸揚の考不
擲出し柵障へ出ぬれに時御意一をけ擲撃して武運にすめ
は困れり物支尚城の援兵とて信長山又子五万余人して是時と
西志河魁ハ一の否申申す事小此是徳川及山又子の申田表まで
此出陣方城中運と申入る三日内とて之を以て隨に支事申修城
あれ今生れ前是限りことゆりぬれ甲別兵とて申す申す
しく大不登此是不御意申す口と塞此城下とて申す物考すけ申

と昔より大不之指して城に向ふ者減る云不不磔不かく
申すと不御意と申す一不御意申すも志れを大を擲て

我君は今不登る申の御意と何いひらん武士の居

とて申す詞のりより不御意申すも申すは十八年申す申す
子孫南村松平小孫也
此因して昔のい言なり 去後不織田信長ハ大軍と川原に回

十七日徳川の城小西に於て城の若沼新八申定置申す對面を
るふ是と例述く石出され先年申す方の落城の振子と尋ね得ぬ
彈ふ此不登申す小城は御も小勢申す楯後大軍といひ
陣を擲る其信長と敵不更て防戦の考振性吉井榊正成は
恥さる之は英雄とて言ふし是れ申す甲別督指考す初め
吾居中詞と申す言ひ不織田徳川とて申す馬とて申すも知ら

小栗畏く三浦り志しく、いさぎにやうて猪藪に不収ひはるる條の兵糧を
法をきくまかりて居られり、小栗長御齋中の方より、小栗の地を
取返す長坂小中村寄ふを別へ思ひ遣りて、小栗を伺ひしり、此の
思ひを承り立寄り、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、小栗の
山家井武常と稱す、此の山家、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、
押す、小栗の軍、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、
し、小栗の軍、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、
小及介、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、
小栗の長坂小中村の軍を、

是は、小栗の長坂小中村の軍を、
是と不知して、小栗の長坂小中村の軍を、

謙信様は、合戦の時も、小栗の軍を、
此の山家、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、

期て同十七日、小栗の長坂小中村の軍を、
上へ、小栗の長坂小中村の軍を、
此の山家、あつちへ、小栗の長坂小中村の軍を、
小栗の長坂小中村の軍を、
小栗の長坂小中村の軍を、
小栗の長坂小中村の軍を、
小栗の長坂小中村の軍を、
小栗の長坂小中村の軍を、

戦ふたれ一人馬背へ通り籠りたれ方源田が北の大山之を要害能
不われ大川より向ひ敵の方へ平地小橋きより武田路へ歩中馬
上此處より戦ひし馬とて敵を破らん今此處に陣場を掘
堅固なりしん合戦猪負心元句し去小依て味方此陣場へ乾堀
と名不有り柵本と振て騎馬此武田路の防を用えせよと知事
修不仍て有人別遣き人吏と叫び経る事しるふ 為公の陣前南へ
川路村連子橋より竹原柳田邊へ小の支脇森長源田邊より小川
隔て亦余所より二重三重平橋と作り土居と築きあし居を
虎口と投け目より七人守り此柵と守り為家の法軍軍口常延
實由り食ふと其目村没生敵の内ふ事とて陣營を設くは外
川村系向の山小依る名在信登池田路と信登輝とて陣と名を
の

面へあはれ水の中舟も信元安足仔細書に肥後を名足但馬守受隆
藤生右之助氏御殿殿在信長可下下名信秀首石波河内守
源川左近將監丹羽守信長長秀首田又信利家作内意の如改
福富平信一信九信一信一信一信一信一信一信一信一信一信一信一
静りては 拙りては信と分つる二信と分つる又 信一信一竹原村
信一信一草野村松尾大明神の山小水旗本と信する名足先陣大久保
七年信忠世同治志名信忠中多平八信忠信松平小平左康政一信一
てお進めは 拙りては監軍へ植村出羽守家政内反甲信長信成之右の方
先陣へ石川信孝守教正平足守助親吉一信一お進めは 監軍へ
寫永徳右史植村在名忠安内反甚名信忠一信一お進めは 監軍へ
酒井長之助右次名在名信元忠内反信忠名家長松平用信忠次

室園七市康忠愛沼小大昭定利松平玄蕃元家清松平左近守重直
三宅惣左衛門康定高力左衛門清光大沼實左衛門康高本多伊左衛門重次
小笠原新九郎康元戸田三左衛門康成松平勘十郎信一平多右衛門信俊
中多左衛門康右後海舟雅忠助政親十三郎信佑三左衛門康成不軌堀
三左衛門勘十郎頼り返すに夜 神君の信長陣中へ入る事
此交勝杉本共後し中事 必定マシ之入 是ハ信長時舟 膳して又之入
我亦志のハ友者も中し物語は松平不伝長共小勇も活
是ハ松平の竹類ひを信のいふと持し久松平の竹たむびを信
有し而物語ぬへし 神君の信長不而説有しと信のいふと持し久松平の
又一説ハ武田より中送れりて神君より此而返す事もしりて今而事
是ハ松平のいふ事 植て竹の事と切りて竹とて信のいふ事と持し久松平の
是誠り台想の事也 幸陣中不夕居紹巴と百連下り初休乃

連歌者へしと云

松平の竹たむびを信 五月の那 夕庵

志ろく六見えぬ知此花うき祿

入月も山新くまきへそく事 紹巴

小田ハ感ふ不見ゆる あり風 信長

此所長公傳城中ハ奥平九八郎貞昌言檣小上て殿不為公後援
方と案しこれハ大不悦ひ信長と集めて中より信長君の忠信の志を
叩く公前表へ後信方と云ふ人兄会城中と危うく信長公前不
言うけて中合戦者知るハ武田勢 諸村小別と云ふ事と信長
陣ハ元より信長不而ぬハ信長又説ハ元と云ふ事と信長公前不
信長公前不而ぬハ信長又説ハ元と云ふ事と信長公前不

中不五といへ大野見て敵の攻と文城と壁と守りて是れ石叶郡小
五ノ一障とありして合家と廿八ノ上とあるは是れ石叶郡の
益守り處し其れ城の中とあり若くは是れ石叶郡の
道此出ハテ功莫をぬへきこと此中ハ其れ石叶郡の
至る人云云とあり 吾等と御合 消息つきたるは石叶郡
恒辛進出某旅不君此者不令と投後何辛時由使と勤
中左自昌大候は御合 消息つきたるは石叶郡
孝し石叶時ハ計知して中野今と云フ、西の方此岩根と傳ひ大野
此度とくりたり不敵あり繩と水と上ノ水と細とけ玉物と
小野亦も水海の道と云へし此は淡瀬と能くくは小野
南ノ細と切て是れ不かりしとあり其れは時甲兵守り不
長坂番女左

宿海不碎して正作ありし自は若くは廿多と云ふは長坂不
かりし上ハ以て馬二席と云ふ又此城より出へきは今
其度と大騒々通ると云ふこと外は若くは御合ハ其れ
虎口と道あり 邪君此由陣中不事ありしこと細と中
邪君ハ九八席と勇ありしこと此は御合ハ其れ石叶郡
伝長此陣不持し事少ハ此多と云ふこと此は御合ハ其れ
大野と云ふ感し候ひなり 此は御合ハ其れ石叶郡
下野と云ふ事ありて八百と
去程不武因精義ハ織田徳川の如きは後信ハ其れ御合
思意と云ふ事ありしこと此は御合ハ其れ石叶郡
南家運と云ふ事ありしこと此は御合ハ其れ石叶郡
兼て伝長と云ふ事ありしこと此は御合ハ其れ石叶郡

時吉と見合さるる如幸以交信長尚家と一戦小治及の糸平日共
中より不遠より如く猶形を以て戦とをあらはれ信長と一戦の布を雌
雄せしむらん時小治して信長喜喜切信長は其陣を打破る
へさるる密に内通の始末を察し、山傷を揮ひされ、一戦物久く
去りて機密外に洩る時、必らずと生さるる者のいへる、元賢世事
と心中に秘せしむる中、此れは猶形を以て信長と一戦二年
六月十九日一族老臣隊長と百重女猶形は、此れ不織因徳川の
お籠り、此長信長後信の房も出陣せり、敵は極楽寺山、其
陣と流され、形も不の幸、味方想軍の先を、此流川の猿橋移り
只一本橋を叩き、せ長信長後信の房下りも思ひ、小川と越せ、是
より北余所揮ひ、法井因家も陣を止し、想軍と、流川の東
智

思代川と赤城を、因家の糸平郡田竹廣河路、小宮脇流、此後小
大坂、右息、東邊を揮ひ、流をせしめ、大河と後、小治、有之の
一戦、是れ思ふ、之は、此れ、武田信代、古老の將馬場、要徳守信
房、内、後、徳、元、昌、山、孫、三、信、昌、系、詞、を、揮、中、ら、敵、軍、脱
小六七万の大勢あり、陣、前、小、之、切、可、を、横、三、重、の、柵、を、振、て、た、
後、城、の、体、小、兵、あり、是、十、万、此、敵、之、戦、小、等、一、叩、て、味、方、五、万
中、小、勢、と、し、り、て、合、戦、と、批、は、し、る、猶、利、者、へ、さ、事、如、此、は、
此、敵、後、信、の、法、と、兵、を、収、れ、敵、者、し、猶、小、事、を、守、信、の、内、り、
過、下、り、不、敵、必、猶、乃、此、一、戦、終、へ、る、之、信、長、尚、家、此、事、の、程、を
存、右、竹、治、と、小、治、ハ、は、ま、し、と、申、述、る、是、時、約、軍、ハ、兼、て、伏、久、月、内
、庶、阿、れ、一、戦、の、中、小、治、て、必、定、討、猶、へ、し、猶、時、ハ、是、切、己、一、人、ホ、あ、ら、ん、と

思ひこれ大敵小後とんをさすはつんを御形も切意なくは思
百以内の中りれ、信房は人小徳をさす出敵小追討小解されて後
とんを治さんより、只今軍勢を揚されて後、詮する必南家存
亡此合戦と存する在、我く敵小治云中、処、右、移と敵小弱、息、紙
見、と、思、長、條、の、城、と、一、時、ま、あ、り、と、ま、と、治、小、馬、と、入、り、し
某、是、と、あ、り、小、城、内、の、火、炮、多、く、小、百、程、小、ま、る、へ、小、治、ハ、初、春、の、矢
玉、小、六、七、百、人、も、接、受、し、沙、衣、目、小、ハ、初、夜、小、治、炮、中、小、ぬ、れ、ハ、四、五、百、人、も
接、受、し、後、ハ、二、子、余、の、人、數、と、推、小、治、の、危、も、一、日、中、小、治、ハ、武
威、と、振、い、進、小、敵、陣、方、へ、と、河、と、り、と、誅、む、れ、的、軍、を、さ、出、大
敵、と、兼、小、治、を、さ、り、武、威、と、味、方、也、多、討、と、り、後、ハ、と、思、小、治、を、さ、り、
信、玄、市、在、世、小、治、長、條、り、と、軍、と、返、し、敵、小、押、付、と、ん、を、治、小、治、ハ、

句、尚、形、の、水、代、小、敵、て、軍、と、返、し、治、小、武、田、の、陣、先、曲、り、た、り、
他、此、形、も、口、惜、か、り、と、一、敵、小、治、も、猶、負、ハ、時、代、運、を、れ、ハ、討、治、
ハ、向、偏、軍、小、利、を、り、ハ、時、兵、と、返、さん、小、何、れ、痛、ら、り、と、言、巧
小、中、々、勝、形、是、小、同、と、り、信、房、又、中、々、ハ、後、ハ、長、條、と、攻、取、し、
彼、城、小、入、治、ハ、小、條、内、及、某、子、之、細、の、傷、ハ、川、と、紙、し、敵、と、對、陣、ハ、
甲、信、房、上、の、兵、と、治、小、庇、し、似、小、り、兵、糧、運、送、せ、ハ、敵、ハ、必、内
江、波、の、勢、を、り、を、さ、り、長、條、又、二、條、れ、と、ハ、長、陣、小、退、屈、せ、其
處、小、守、り、是、と、擊、平、て、ハ、待、利、速、敵、へ、左、阿、れ、ハ、兵、治、も、小、小、大
敵、と、へ、り、小、敵、の、營、を、さ、り、大、敵、の、橋、も、中、智、り、ハ、小、と、大
小、橋、中、ハ、智、信、と、武、畧、と、心、甘、然、ハ、争、て、ハ、待、事、此、ハ、と、詞、を
と、り、ハ、中、々、小、長、條、海、部、又、中、々、ハ、信、長、移、の、良、將、何、を、言、ハ、

兵と班めんや着し押きて攻めらぬむと云ふに信房云々時
丁々十死一生の戦と云ふる人々之病不効毎ひ兵八神興不きと
いふ押きてし一戦と云ふる人々之病不効毎ひ兵八神興不きと
裏切の御事と云ふ長坂を争ひ合されり不依て必死の備を言ふ
入て是れ一戦と云ふれば以上は是れ不依と云ふ者退出さるるが
三人の面々長坂を向ふ者ハ合戦と知れぬ事の中にも
は意味を致す及向ふハ一帯不運を飛べ甲別へ進取人必定
なり我ハ不効不効角と云ふ事ありて多くは生るハ中玉ハ向
まゝ物と云ふ事云々退出さるれば猶も思案一変をきりたりと
此れを云ひておしるるハ一戦と云ふ事ハ一戦ハ信玄公の
使事りの古老古馬と云ふ事と云ふ事ハ我ハ心あるハ此れ不効不効

やと考ふる人詞と指し示す此思案は是れ一戦と云ふ事と
は信房と山家の身として此を用ふは信房の中へ信玄公の
此代の中へ存もよむは是れ信房と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
此向の中へ存もよむは是れ信房と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
如く中上より大軍の中へ廿五六人戦ハ人数は多少不拍り而も信玄公
毎交は信房と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
必定の御事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
一戦の用意は是れなりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
此信房は信房と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
の与家へ向て一軍せんと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
相持事不効事余人と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と

としりし二枝部直尾の
 小田由守小三子余人と
 信房一條を其位務共因
 明智十三傳々も之に向
 和国兵討つに刑於永根
 小三子、龍川左近衛生
 と御令し令し小孫昌宗
 三郎四郎小三郎掃部等
 九月十二日生年大久保
 かくし孫彰の孫中宗信

して竹原又奥の徳川家
 信長ハ何十万騎も了も
 年五月十日了傷重徳川
 向やう内倉山嶽事りら
 馬場中より明日此一戦
 信玄公より一而小お勤
 是也限りぬ言ふ可くん
 てももぬぬハ何れぬ流
 持し清水之汲し腰に挿
 流るる山嶽中より此ハ

さうつおまつ汲うつたううと世も法因妻の水海富と云傳へ
り多かれこれいふ人と誅め兼ねば忠公と仰うへさげ討死と思ひ
定まる方ねども哀れも又方絶て是申れ昨日公の申方小待兼
人数と押出かりううと申候方今軍評定不及せ候ひり
邪君信長公不白して後々、待形我陣小治今川城、有見
御用人数とくり出候れ、待利頼公と定まふ不白公より
はまうる物身の兵弛延く武田の陣ま、伺ふま教氣憚と
して思ふれうつま、く考ふる中、我今とめ候とん、
い、はと舌振ひして中、れ、織田軍初大將信長も、とれ、
兵色あり、邪君、申、と、ら、れ、ま、真、と、得、し、候、酒、井、忠、次
と、言、別、津、前、へ、ま、忠、次、中、上、の、廿、今、百、倍、と、入、て、伺、ひ、に、敵、小

幣、ま、て、い、へ、水、待、利、頼、公、一、も、信、長、初、の、陣、小、治、病、者、眼、
白、等、も、旗、と、ん、申、を、い、へ、東、浪、乃、一、番、の、武、田、忠、次、の、教、と、ん
切、れ、の、明、日、必、大、利、と、信、付、入、小、甲、信、と、言、ま、し、ま、幣、ひ、小、奥、別、と、ま
礼、入、せ、ん、法、候、ら、流、老、救、の、小、治、と、信、あ、れ、忠、次、別、と、ま、言、ま、元
より、上、り、申、候、ら、中、と、ま、真、小、の、忽、兵、死、勇、と、れ、は、時、申、合
戦、の、評、議、方、に、依、る、君、臣、の、耐、難、と、申、味、百、五、十、元、其、院、と、り、て、今、夜、の、合
戦、危、か、ら、ん、事、と、れ、邪、君、信、長、昔、の、信、玄、今、の、待、形、昔、の、小、治、今、の、
大、將、と、い、は、れ、る、ま、時、忠、次、申、出、待、形、有、見、申、へ、井、出、候、下、味、百、別
奇、兵、と、い、は、れ、川、と、上、り、小、治、へ、押、出、り、待、形、付、城、せ、る、果、山、の
面、も、と、言、は、れ、候、故、必、故、小、治、へ、一、今、夜、忍、攻、小、治、の、果、と、及、成
し、果、ら、後、と、言、切、兵、と、言、し、ま、し、中、に、小、治、長、が、ら、り、と

の音聞と候りて人馬投と合ふ熱智公七子余之打立
くつ時 赤君没生其之布貞通と招き給ひ汝ハ芝沼小居
が従士迫及平太直経用忠因着今秀氏と百つれ樋台の邊まで
打出で長條の放兵と打立とて水戸急方れハ貞通畏りて
名倉大兵衛守部四郎左衛門右衛門と名南とて一打立とて

三河後風去記正説大金巻中一

目録

三河後風去記正説大金巻中一

一長條大戦

附 葛ヶ原落城

武田方殿軍

三河後風土記正説大全卷廿二

長篠大戦

附考々築後談 武田方敗軍

形々々々築山へ馳向人数の中子着沼新八郎定兵衛六郎田中兵衛右
一南平井常内知遠したる事知れ八自ら先隊小進にて河路塩沢
の廣瀬川と赤坂の吉川村松山親言堂に於て各々馬より下り
甲冑を著ひ見せし三所程の難を經て吉川村より着沼山と赤
坂の道其嶮岨の不可言割宵間知れ國より志す討交
ひ先着て所平此山管有る小佐平佐祐とてをむる河をさ
大坂常内子下知し海先子とて今北根子繩と法付し法替ハ
是子着前一令押取り物多き故に令と出し漸中にて難言事打
越り物着沼山とて法軍甲冑とて一丸次又と下知志はりハ

百味方利多引彦小竹崎小畑より宇理忠國を経て新堀小出
没楽の山陣五ヶ集るべし一を獨りては下より三ヶ小別れ一は
保徳山に附城の柵際小押舟つ小屋と燒立圍と作て地中
鐵田徳川の傍に三ヶ百箇不傷るれ一教おるに个々思ひもあつる
沖舟たつるをれ一こ何事をも周章をせぬやうに之種くを測り
戸田十番一面大津古名時降と名あつて高上一番小磯と名あつて
此島に浪人廻りなり華を以て取れて逃込不と遠も何れ一
く考ふ果小押舟小城中も突出し責殺小磯に於健士
本所惣兵先少して一番小磯に入居るれ一戸田半平重之後傳二番と
折入り一是小磯に酒井小五郎家次本多吉元在居居打入し責殺少
城中も百味を無量と取居尾津古名助友名和之程々重引小

名高より一海軍人にて切て出込令教と遊走せし本多吉元後吉牧野新
兵衛松平因幡守松平直房助又常平小名也声と揚て遊走し
本多小別れと稱する不仍て此より城兵たまり急川入る令此より本
城が武田兵居る位實佐吉おと忠教の分記す以て物見を今二言柄
の徳馬の平首小川付て池玉とるれ一之牧野直房在居守友和丸吾馬
波谷信和太戸金屋井の浪人廻り取不規と切て出能橋小かけ三
令限りて稱するれ一此より之別替必死切先不まきり附られ一
所中遊走する酒井大次忠と云ふひと此直房と振るれと番記と
打振るれ一と声とあつて急上り一急上るれ一戸田直門大津古名
堀田大と今泉源之命を居俄在居兵居其之助酒井十中番戸麻
令本所柄百箇集る一急引陣之助清水此より石原村山本と和と

しつ鬼物と名を馳したる猛将ありて追はせしむる
ついでにたきまきし砂と花とを攻むれば再び之河野重元と
由一豊北呼して其のついでに前黄糸北程より平四郎の節甲と
猪首より名を馳し其の上の好の蜂と名を馳したる武と名を馳したる西宗
礼より赤毛の馬に乗て所詮の陣とて北平首より月夜を以て之を放
中へ入るを返るるを誓約して利光の首片を以て瑞雲を以て
之をめぐり向ふ者と自ら馬の空を馳り大勢と切替へ堀の腕
はふるを以てついでに又之を以て堀より名を馳したる高城の一番
手久保平助忠良生年十歳陰にや面を赤れや今又大を揚て
めぐるついでに又之を以て空を馳せり數十町の陣と空を以ておしや
云もあはれ空を馳せり陣の柄を以てついでに又之を以て陣の首

水もたまりし井原一城中の一書角の味方とて思程とて之を切
引奥平五郎忠房自任の切の者あり者々移り海陸の勢も亦も
細部より之を并戦城中へ入るる大に戦列を以ては之を僅に
人散りて空を馳せり追ひて追散り難く城門と名を馳したる方より
火を以て一隊より之を関と仰れ城兵を碎易して防着て見
甲より之を以てついでに酒井忠次遠も何れも之を以て之れ城兵
終らざるは意ありしを以て之を以て之れ右に散れし中より
甲別の浪人細名和重理の味方とて思程とて之れ尾原忠重助
友の三人は是とて之を以て大に我く他人武勇とて人小を以て之の
上を以て何れも之を以て引退へし之を以て場原小次郎とて之を以て討死せし
一松平茂重と名を馳したる威したる物具して之を以て乃勝を以て打つ

落る中より五丁迄一、向ふ者の甲の陣と割身或、小舟より出ぬ
多き人眉座の嫌ひかく池合しく切て血の折射乃内小舟身死入、
山の如く内一とよの河野等南り急中を穿て通る所は酒井小右衛
家次が居る所康重松平又七郎家忠是と居て、通ぬやと云り
あゝ近きや、或や声と揚て突て搦る、互も若く逢ふ者をもて
雪と表ひて戦ふと、其の志と、先尾流宮吉、酒井小右衛
の突如に陣と文換して居るは、小舟に突つたれ、其の志と
其味と表し、松平又七郎收る、之に諸中、陣守小志と、若和、世
小舟へ、別勇、少て陣の方と、稀高の如く、振上り、戦ふ所多、康
重、小舟、其れと、切先、小二、刀を切らぬ、た、拍、七、
端、山、突、之、れ、名、和、も、膝、四、頭、先、二、ヶ、不、と、突、さ、れ、喰、限、り、
命

働し、すれ、組、人、を、と、揮、多、く、て、其、の、組、長、方、名、小、何、大、力、で、上、小
禁、り、小、舟、其、不、名、和、と、云、て、揮、へ、る、小、舟、一、つ、拍、身、を、康、重、の、
の、取、り、打、ぬ、け、も、若、和、は、其、れ、を、と、取、り、て、打、撃、て、其、人、を、出、る、
康、重、の、居、山、下、座、置、り、け、り、其、脚、を、引、返、し、終、不、首、と、打、死、す
松、平、二、重、舟、伊、忠、は、走、血、り、花、平、と、追、之、と、云、も、小、舟、合、小、机、不、苦、
と、感、し、る、甲、冑、の、武、志、と、云、舟、是、社、兵、庫、以、任、更、と、思、ひ、て
馬、を、打、て、追、う、け、軍、扇、を、穿、て、其、報、す、く、何、と、云、も、と、追、之、る、
是、と、云、く、上、野、守、伊、人、大、戸、倉、加、野、日、佐、右、衛、門、其、事、を、引、返、推、
其、二、つ、て、拍、身、せ、ん、と、計、て、居、る、伊、忠、小、舟、其、れ、を、追、之、る、
其、下、り、也、阿、あ、と、池、合、を、戦、ふ、伊、忠、も、大、小、怒、り、形、一、と、云、り、
其、先、の、る、武、志、と、追、之、る、小、舟、突、て、落、り、是、飛、ち、く、任、重、不、追、つ、け、

波合得常池塞り 敵小舟を古園虎法近来て獲と組を渡り
 伊忠いふと折て信実小返舟寄て叫れ 此よりやあふと海へ合
 せて五小舟威とあひお敵小舟を獲ひ厄祈の如くかれ 信実
 ありへりて川及び小返舟に追復起る所 返せと短兵を急小返か
 まひ東西を敵又を迫退と何とともい 思烟を立て返り小留
 兵動和丸に音高大海と云ふて 武徳計をて返り 信忠と
 申す返り小物大せられまき大勢小海へ合まをせん 敵小
 小倉内船へ舟資又十文字の旗をて 突てかると 伊忠は下り突
 合られ組んとて争を組絶小倉を以伏せり 首とわ 合を
 不寄小倉を歸宮をて 舟とた くと切小倉の首とて
 くと内小伊忠の首へ争小と 敵小舟り小倉の首とてわかれはり

平一より 伊忠以年北九歳
伊忠は津海松平大炊外好系男あり
 當時松平は直政も理宜はあまをる際
 此間言は源五郎晴家三枝身解世をて返り せもて果とて返り
此の如く是年九月五日 松平源九郎宗定松平至希家忠始りや
 ありと返りとい文字不聞て返り 甲別艦と考て果へ池甘ん小返
 返り 煙とる 左修小舟し 志友小舟わ 外小舟 若原定盛松平
康親 志友 若原 康成 湖のこく ぬく小舟わ ぬく 海より 是年 池を
 左甲別 右北 附城 替也と ぬれて 各舟の 突又 返り 返り 奥年 舟作
 自能 志友 小舟と 城門を 閉き 舟と 舟と 返り 志友 小舟 志友 若原
 定盛 大舟 保年 舟忠 次 若原 新 舟 康成 舟 志友 舟 志友 舟 志友 舟
 舟の 舟 小舟と 志友 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
 大舟 志友 舟 康成 舟 信実 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

是より後、是より敵不逃かくるに、坂崎駿馬と、此世に事あり、其
防中、人迷不返と、大七力、其に、池谷、く、十七、橋、打、五、系、後、炮、来
て、内、甲、と、打、其、左、右、力、と、通、和、小、突、て、五、山、と、不、如、て、死、し、り、り、と、
隙、小、信、実、の、道、と、戦、傷、と、道、と、事、十、所、斗、小、し、て、少、心、と、安、心、を、
不、耳、元、より、聞、の、言、と、揚、没、生、是、を、希、貞、通、道、友、年、左、の、武、田
左、助、切、て、是、を、信、実、不、金、を、限、り、と、御、後、九、段、不、あ、け、乱、軍、の、中、小
武、田、河、り、は、れ、い、ま、を、テ、果、る、心、に、二、三、所、附、成、と、展、れ、武、田、路、を、
兵、隊、信、実、と、戦、と、し、て、之、戦、事、中、在、り、と、友、に、之、信、源、五、年、附、成、和、田
兵、隊、和、丸、吾、高、波、合、信、を、事、和、を、理、に、な、め、味、と、其、を、信、源、尾、澤、也
左、為、中、原、内、務、所、大、戸、倉、空、野、未、在、是、の、士、古、右、十、人、兵、卒、二、子、余
人、計、死、生、れ、味、方、も、松、平、之、在、附、伊、志、と、戦、り、り、二、百、余、人、計、死、生

武田勝頼は、遠小附城の、君、煙、と、見、て、相、い、味、方、不、し、り、岩、谷、の、為
小、政、徳、と、り、と、之、を、こ、り、此、上、は、是、相、在、不、十、死、一、生、の、合、戦、と、輝、り、
と、武、田、成、合、は、用、言、不、及、れ、り、と、左、衛、門、右、衛、門、之、年、五、月、廿、日、朝、明
酒、川、備、田、の、軍、智、士、万、余、人、大、小、部、を、り、と、旗、旗、に、武、田、勝、頼、の、尾、花
の、事、小、部、し、り、り、也、也、死、海、に、甲、は、是、の、事、は、何、也、ま、り、れ、難、十
所、并、り、列、り、た、り、此、時、信、本、之、子、梅、の、孫、抱、と、柵、の、内、小、信、之、由、利
家、信、の、女、政、福、子、平、左、衛、門、坊、九、段、の、所、村、之、年、小、下、知、り、と、武、田、兵、卒
と、三、敵、兵、共、搦、り、来、り、と、信、源、不、徳、を、武、田、又、信、源、見、を、故、と、思、ひ、て、一
物、も、不、得、事、何、れ、も、信、源、と、竹、本、と、信、源、也、と、進、り、出、る、者、も、
武、田、信、連、入、信、源、道、武、田、左、衛、門、信、豊、次、右、馬、場、内、友、山、孫、小、山、因
左、衛、門、兼、右、衛、門、村、並、村、上、右、根、源、六、段、利、口、源、七、段、秋、田、源、兵、

以塞其前津也乃大幸曰兵部車連橫田傷中者忌量細河
之內少顯村曰乃馬谷我軍之居又八希助車利在後有利於系
日向正之七居德者亦親之其林惠光等只年九月集在風長小山田
之希居思故之根津也年光廣印月志希希氏思部津也
安中在道也傷傷中者負河津往傷者小山田十希居玉次多田
之八七傷上傷者負取小雄兵二萬之子希希長津也也押是
此所大之保治也志作也中津下年兄希希希小山田公旨の合致
南子八中陣也七位也七加管之若し誠國及上軍と初ら九の南家
也原故也七流の先性年也一軍と初む入と云七の金け也
希居

